

看護職員就業状況等実態調査（概要）

I. 調査の概要

1. 調査目的：本調査は、少子高齢化の進行及び今後増加する医療ニーズに対応した看護職員の定着促進、離職者の再就業支援等の課題を把握するとともに今後の在り方を検討するため、看護職員について就業者と離職者の状況等を把握することを目的として実施
2. 調査時期：平成 22 年 8 月から平成 23 年 1 月
3. 調査対象：保健師、助産師、看護師及び准看護師の免許を有する者（以下「看護職員」という。）
4. 調査方法：各都道府県を通じて、看護師等学校養成所の卒業生に対して質問紙調査を実施。20 歳代から 50 歳代までを同数抽出
5. 調査対象数：調査対象数 39,134 人、有効回答数 20,388 人（52.1%）

看護職員として就業している	17,384 人	(85.3%)
看護職員として就業していない	3,004 人	(14.7%)
（内訳）看護職員以外の仕事に就いている	979 人	(4.8%)
（内訳）仕事に就いていない	2,025 人	(9.9%)

II. 調査結果のポイント

括弧内の頁数及び図表番号は調査結果資料の頁数等である。

1. 看護職員として就業している者の状況

1) 雇用形態及び勤務体制

- 現在の雇用形態は、「正社員」（82.4%）が最も多く、次いで「パート・アルバイト」（11.8%）、「短時間正社員」（1.1%）、「派遣」（0.2%）であった。（p. 9、図 1）勤務体制については、「3交代制」、「2交代制」が合わせて 50.0%、「日勤のみ」43.4%、「夜勤のみ」0.3%であった。（p. 10、表 16）

2) 就業継続の予定とその理由

- 就業継続の予定については「現在の施設で看護職員として働きたい」（64.0%）が最も多く、次いで「他施設で看護職員として働きたい」（17.2%）、「看護職員以外として働きたい」（3.4%）、「仕事はしない」（1.4%）であった。（p. 14、図 6）
- 「現在の施設で看護職員として働きたい」と回答した者について、その理由は「通勤が便利だから」（51.9%）が最も多く、次いで「人間関係がよいから」（39.2%）、「勤務時間が希望にあっているから」（26.2%）であった。（p. 15、図 8）
- 「他施設で看護職員として働きたい」と回答した者について、その理由は、「他施設への興味」34.1%が最も多く、次いで「給与に不満があるため」（31.1%）、「休暇がとれない・とりづらいため」（24.5%）であった。（p. 16、図 9）

- 「看護職員以外として働きたい」と回答した者の理由は、「他分野(看護以外)への興味」(45.9%)、「責任の重さ・医療事故への不安があるため」(37.3%)、「仕事はしない」と回答した者については、「休暇がとれない・とりづらいため」(24.3%)「責任の重さ・医療事故への不安があるため」(20.6%)であった。(p. 16、図 9)

2. 看護職員として就業していない者の再就職希望

1) 今後の再就職希望

- 今後の再就職希望については、「看護職員として働きたい」(36.1%)が最も多く、次いで「未定」(24.0%)、「看護職員以外として働きたい」(19.6%)、「就職希望なし」(17.5%)であった。(p. 17、図 10)
なお、「看護職員として働きたい」の割合は、離職期間が「1年未満」で61.4%、「1年～3年未満」では51.6%であるが、5年以上では40%未満に低下していた。(p. 17、図 10)
- また、看護職員としての通算就業年数が「1年未満」の者では、「看護職員として働きたい」(22.8%)に比べ、「看護職員以外として働きたい」が49.7%と高かった。(p. 18、図 11)

2) 希望する雇用形態と勤務体制

- 看護職員として働きたいと回答した者が希望する雇用形態は、「パート・アルバイト」(48.0%)が最も多く、次いで「正社員」(30.4%)、「短時間正社員」(18.8%)であり、短時間勤務を希望する割合が正社員を希望する割合を上回った。また、勤務体制については「日勤のみ」が85.2%を占め、「交代勤務(2交代制・3交代制)」を希望する者は11.4%であった。(p. 20、表 23) (p. 21、表 25)

3) 再就職に関して抱く不安と求職の状況

- 再就職に関して抱く不安については、「最新の看護の知識・技術に対応できるか」(33.4%)が最も多く、次いで「家事・子育てと両立できるか」(32.6%)であった。なお、離職期間が長いほど、前者の不安の割合が高かった。「不安はない」は3.0%であった。(p. 22、表 26)
- 再就職時の研修を「希望する」が76.1%であり、研修を希望する場所は「就職する施設」が88.9%であった (p. 25、表 29) (p. 25、図 18)。

3. 退職経験のある者の退職理由及び再就職状況

1) 退職理由

- これまでに退職経験のある者の退職理由は、「出産・育児のため」(22.1%)が最も多く、「その他」(19.7%)、次いで「結婚のため」(17.7%)、「他施設への興味」(15.1%)であった。(p. 28、図 24)

2) 再就職の状況

- これまでに再就職をしたことがある者が再就職先を探す際に利用した施設等は、「友人・知人による紹介」(26.7%)が最も多く、「ハローワーク」(22.1%)、「ナースセンター」(10.2%)であった。(p. 34、図 30)
- これまでに再就職をしたことがある者が再就職先を選んだ理由としては、「通勤が便利だから」(56.5%)が最も多く、次いで「勤務時間が希望に合っているから」(51.0%)、「短時間勤務ができるから」(20.4%)であった。(p. 30、図 26)
- 再就職時の雇用形態については、「パート・アルバイト」(48.5%)が最も多く、次いで「正社員」(39.7%)であり、「短時間正社員」は2.7%にとどまった。(p. 34、図 31)

〔調査結果を踏まえた今後の看護職員就業支援〕

- ・ 看護職員として就業している者の就業継続の予定は、「現在の施設で働きたい」が64.0%で最も多いが、他施設での就業や離職を希望する者もいることから、定着促進に向けた取組み強化が課題
- ・ 看護職員として就業していない者で看護職員の通算就業年数が1年未満の者は「看護職員以外として働きたい」の回答が多く、新人看護職員の定着促進も課題
- ・ 看護職員として再就職を希望する者の雇用形態の希望は、「パート・アルバイト」及び「短時間正社員」で66.8%であり、再就職を可能とするための多様な勤務形態の導入が必要
- ・ 看護職員として再就職を希望する者のうち、再就職に関して不安を持つものが9割以上。再就職時の研修を希望する者は76.1%であり、再就職に向けた支援も必要
- ・ 再就職をした者が再就職先を選んだ理由は、通勤の利便性や勤務時間に関するものが多く、ワーク・ライフバランスを考慮した再就職支援が重要